

# 第一〇一回 日本医史学会総会 演題目次

## 会長講演

京都における病院の発展史……………中橋彌光……………二九

## 特別講演 1

京都と性科学——性科学京都学派の現代史……………友吉唯夫……………三〇

## 特別講演 2

看取りの文化とその歴史……………新村拓……………三〇

## 招待講演

台湾解剖学史——森於菟と金関丈夫両先生を中心に……………哈鴻潛……………三〇七

## 一般口演

1 摩訶止観の医学……………杉田暉道……………三〇

2 半井家起源についての一考察——「半井小草紙」に出逢つて……………半井英江……………三二

3 『医心方』にみる大豆について……………榎佐知子……………三四

4 田代三喜の新発見の医書『本方加減秘集』の検討……………遠藤次郎・中村輝子……………三六

5 司馬凌海——生涯と遺跡についての若干の知見……………高橋昭……………三八

6 岡山で蘭方を教えた吉雄永清……………中山沃……………三〇

7 吉益家門人録の考察……………町泉寿郎……………三三

8 近代医学黎明期の広島と浅野藩薬草園「日涉園」……………原田康夫……………三四

9 華岡青洲の「乳巖治験録」の新研究——呉秀三の復刻文に対する疑義……………松木明知……………三六

10	華岡青洲自筆序	高橋均	三三八
11	お玉が池種痘所の設立に参加した添田玄春	深瀬泰旦	三三〇
12	江戸期本草家の北陸への関心(四)——藤沢光周と『奇草小図』について	正橋剛二	三三三
13	S・アンマル教授著『アヴィセンヌ』	泉 彪之助	三三四
14	中欧のペスト塔について	石田純郎	三三六
15	ロンドン・ジェネラル・インスティテューション設立の理念	柳澤波香	三三八
16	オスカー・フウルピウス(一八六七—一九三六)と日本の草創期整形外科医達	浦原 宏	三四〇
17	『重訂解体新書』所引の『医学原始』について	陶 惠 寧	三四二
18	ブラシウス『動物比較解剖学』(二六八一年)の解剖図について	松尾 信 一	三四四
19	William Cullen にみる Delirium の記載について	小曾戸 明 子	三四六
20	ウィリアム・ハーヴィの方法論——類推の正当化をめぐる	澤 井 直	三四八
21	馬王堆三号漢墓出土の胎産書について	米 倉 亮	三五〇
22	『伝屍病廿五方』の鍼灸	篠原 孝市・小曾戸 洋	三五二
23	中国古代における予後診断	和 田 裕 一	三五四
24	惟宗時俊の『続添要穴集』	小曾戸 洋・篠原 孝市・石野 尚吾	三五六
25	中国におけるテリアカを受容	中村 輝子・遠藤 次郎	三五八
26	螟鍼について	上 田 善 信	三六〇
27	日本で最初の精神病専門医高松彝と全漢文のその著書『精神病学綱要』	岡 田 靖 雄	三六二
28	田中彌性園蔵・オランダ外科三訳書の知見	田 中 祐 尾	三六四
29	中国伝統医学と道教(第二十一回)——「鎮宅靈符」	吉 元 昭 治	三六六

30	大江雲沢と中津医学学校について	川  真 人	三六
31	横井 寛編「東京府内区郡分医師住所一覧」(明治一八年刊)に掲載された医師人名	樋  口  輝 雄	三七〇
32	兵庫梅毒病院建設問題と英国公使館——開港場における検徴制度の導入と密淫売取締り	大  川  由 美	三七三
33	英国医史における字と職と——法制的考察(その二)	栗  本  宗 治	三七四
34	来日フランス人医師ヴィダールの生涯——フランス側からの報告		
	清水 陽人・蒲原 宏・ガストン・ティシニエ・オーギュスト・アルマンゴー		三七六
35	カスパール・ポーン “Theatrum Anatomicum” について(一)		
	——初版(1605)と第二版(1621)の序文の比較検討	月  澤  美 代 子	三七六
36	膝関節に名前を残す二人のフランス人——Gerdy と Segond	小  林  晶	三八〇
37	『史記会注考証』と『扁鵲倉公伝彙攷』の関係	宮  川  浩 也	三八三
38	『玉機微義』の鍼灸	北  江  龍 也	三八四
39	中神琴溪の刺絡	友  部  和 弘	三八六
40	我が国における瀉血(刺絡)の歴史	藤  倉  一 郎	三八八
41	伊古田純道の帝王切開術学習について	石  原  力	三九〇
42	橋本病発見者 橋本策(はかる) 補遺	佐  藤  裕	三九三
43	大分県立病院医学学校における眼科診療について	山之内  外 一	三九四
44	済生学舎廃校直前の「学内改革」の資料について	唐  沢  信 安	三九六
45	〈経絡血管説〉再考	松  木  き  か	三九八
46	徳川期東日本における駆梅薫薬方について	中  西  淳  朗	四〇〇
47	幕末期院内銀山における薬種の仕入れと薬代等のシステム		

	——「門屋養安日記」にみる庶民の医療（六）	助	昭三	四〇三
48	日韓医学交流史——杉原徳行の業績と評価	渡辺	晴香・金善珉・丁宗鉄	四〇四
49	古病理学からみた日本の近世・近代	谷畑	美帆	四〇六
50	医学・医化学の発展と教育（特にその制度史）	柴田	幸雄・工藤幸子・田中伸	四〇八
51	医学資料としての彩色図・カラー写真の歴史	長門谷	洋治・寺畑喜朔・坂上俊之	四一〇
52	明治初期発行の日本医事雑誌について——その保存状況	寺畑	喜朔	四一二
53	各府県で発令された看護婦規則にみる看護婦資格の条件 ——大正四年以前の二十九府県の看護婦規則から	平尾	真智子	四一四
54	明治期待医制度と池田文書	遠藤	正治	四一六
55	「二陰交」の歴史	木場	由衣登	四一八
56	「蟲書」についての一考察	戸田	静夫・亀節子	四二〇
57	『外臺秘要方』の鍼灸——卷三十九「明堂」以外の掲載内容について	宮川	隆弘	四二三
58	日中戦争時における陸軍の医療体制	坪井	良子	四二四
59	第一次大戦の航空医学	黒澤	嘉幸	四二六
60	占領期における地方病撲滅への山梨県の歩み（第一報）	佐藤	公美子	四二六
61	「池田錦橋入門制戒禁約書」と京都の痘科医佐井聞庵について	長谷川	一夫	四三〇
62	日本における核医学の先駆者・森信胤	小田	皓二	四三三
63	我が国における長寿研究の系譜	秋坂	真史	四三四
64	『赤水玄珠』の「方外還丹」について	猪飼	祥夫	四三六
65	古医書の医学・医師教育用デジタルアーカイブの試行	筒井	淳治・田中新二・芦原司	四三八

誌上発表

66	中日疫病史の中の「疫」と「瘟」	.....	部	浦	四〇
67	秋山 半井 澄 (二八四七—一八九八) — 京都府療病院長・医学校長・医師会創始者	.....	藤田 俊夫・半井 英江	.....	四三
68	咬咀の源を探る	.....	郭 秀 梅・加藤 久幸	.....	四四
69	『阿蘭陀経絡筋脈臟腑図解』からみた十七世紀末におけるわが国の身体観	.....	計良 吉則・酒井 シヅ	.....	四六
70	眼科秘伝書の彩色眼病図譜の特長	.....	奥 沢 康 正	.....	四八

公 告	.....	二六	
医史学文献目録	平成十(一九九八)年	.....	四〇
	順天堂大学医史学研究室編	.....	四〇

《本号の表紙絵》

栗田口療病院開院式

明治5年11月朔日(日曜)栗田口、青蓮院内に仮療院がもうけられ、医師の養成が始まった。京都府立医科大学の濫觴である。

開院式当日療病院設立の趣意ならびに規則が述べられ、病院勤務の医師全員が出席、舞、雅楽などのあと西洋料理がふるまわれた。向かって左の旗は赤十字旗、門外左側に四段の寄附札が建ち、その前を見物人が長蛇の列をつくっている。(『京都新報』第13号・明治5年11月11日付より)

(奥沢 康正)